

スポーツ推進委員 だより

座間市スポーツ推進委員協議会

第 63 号

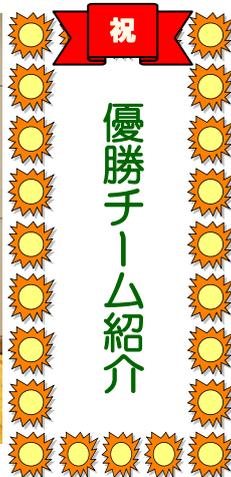
発行日 令和6年2月29日
 編集 座間市スポーツ推進委員協議会
 発行 座間市健康部スポーツ課
 住所 〒252-8566
 座間市緑ヶ丘1-1-1
 電話 046-252-8177
 F A X 046-255-3550

第31回ソフトバレーボール大会

令和六年一月二十日(土)にスカイアリーナ座間でソフトバレーボール大会を開催し、ファミリーから経験者まで計一〇一人の参加がありました。序盤は、これまでのコロナ対策により、知らず知らずのうちにあまり声を出さないうでプレーするのが習慣となっていて、順位決定戦などでコート周辺に多くの人が集まり、周りの人からの声援を受けるとそれまでとは一転、自然とプレーする選手たちの声と動きが大きくなっていました。これからもみんなで大きな声を出して、心とからだを開放してスポーツをエンジョイしましょう。



一般初心者の部
優勝 栗小ドラゴンズ



ファミリーの部
優勝 チームはるき



おめでとうございます!

ざまん
座間市マスコットキャラクター



みんな真剣で楽しそうでした☆



一般経験者の部
優勝 ステラ

ニューフィールドゲーム

令和五年十一月十一日(土)に、芹沢公園で開催しました。当日は、近隣の小学校の運動会と重なり、人が集まるか?と危ぶまれましたが、多くの方が遊びに来てくれました。

受付

エントリリーして、スタンプラリーの用紙を貰いゲームのスタートです。

ラダーゲッター



年齢に合わせて距離を短くするなど工夫し、二歳くらいのお子さんでも楽しんでゲームに参加していました。

グラウンドゴルフ



友達や家族で競って楽しんで上手く球に当たった時はとても嬉しそうに笑顔を見せられました。



おなもみダーツ



十月、十一月に可愛い種と出会えま

おなもみ(植物の種)を的に向けて投げるゲームです。ゲームに使用した種を持って帰る。

ウォーキングサッカー



絶対に走ってはいけないサッカーです。でもボールを追いかけようとすると無意識で走りまわります。自分との戦いでもあります。

松笠アート



松笠に目と羽を付けてフクロウを作りました。全てが手作りのため、同じフロウは一羽もありませんでした。

クッパ



昔は子どもだった大人も、ついついゲームに熱中してしました。木の的に当たった時のとても良い音が達成感を味わわせてくれます。

帰る時は、参加賞を受付でもらってみなさん笑顔で帰っていかれました。



参加者は六十六名でした。ぜひ来年も参加してくださいね。

県央ブロック研修会

令和五年十二月九日(土)に、県央ブロック研修会が宮ヶ瀬湖畔で開催されました。

座間市の七名を含む七市一町一村の七十一名が研修に参加しノルディックウォーキングとグラウンドゴルフの実技研修が爽やかな空気で自然がいっぱいの宮ヶ瀬園地で行われ、とても気持ちの良い汗をかきました。

日本発祥のグラウンドゴルフはゴルフの要素を取り入れたボールゲームで、誰でも楽しめることから参加者全員が歓声を上げながら楽しんでルール等を学びました。

ノルディックウォーキングは、北欧のフィンランドにおいてスタートした二本のポールを使ったウォーキングで、その手軽さと全身運動効果の高いエクササイズとして注目されシェイプアップや姿勢矯正、美しい歩き方をしたい人にはうってつけのことです。

参加者のほとんどが未経験とのことでポールの持ち方歩き方など初歩から教わり湖畔を何とかが周回してきました。初めて経験しましたが、下半身だけでなく上半身もバランスよく鍛えられるとのこと。貴重な研修会でした。グラウンドゴルフとノルディックウォーキングで学んだ貴重な研修成果をぜひ座間市民にお伝えしたいと思えます。

全国スポーツ推進委員研究大会
青森大会

大会テーマである「スポーツで煌めく笑顔のために」青い森から縄文の風に乗って全国へくを体現しなければと「三内丸山遺跡」で縄文時代を体験して会場に向かいました。

会場では青森県立青森工業高校ねぶた部のねぶた囃子と掛け声、五所川原第一高校津軽三味線部の迫力ある音色が参加者を迎えてくれました。

基調講演では、青森県出身で、かつては「トラックの女王」と言われアテネ〜ロンドンまでオリンピック三大大会に出場し、マラソンでも活躍され、リオデジャネイロオリンピックにも出場した福士加代子さんのユーモアあふれる話が印象的でした



大会後は三内丸山遺跡、弘前城でパシャリ！

受賞者コメント

(たかはし ひろし)
高橋 廣 委員



十一月十六日(木)・十七日(金)の二日間、昨年に引き続き、今年

度も全国スポーツ推進委員研究協議会青森大会に出席しました。昨年の全国大会で三十年勤続表彰をいただき、これからも頑張つて取り組んで行こうと気を引き締めましたが、まさか今年度も賞をいただけるとは思いませんでした。今回の全国大会は、参加人数の制限が緩和され、昨年の二名とは違い、会長はじめ五名の推進委員と事務局一名が参加でき、昨年以上に大変幸せな時間を過ごさせていただきました。アトラクションと基調講演も大変素晴らしいかったです。六月の関東大会でもそうでしたが、コロナの影響で各種の行事を控えてきた関係で、過去の実績を取り戻すために各県のスポーツ推進委員が必死に取り組もうとする姿勢がより感じられました。全ての年齢層の方々が健康的に身体を動かせる機会をより多く開催し、笑顔で取り組んでもらえるように頑張ろうと思いつつ全国大会を締めくくりました。

ニュースポーツ教室

令和五年十月六日、スカイアリーナにて、ニュースポーツ教室を開催しました。種目は、ウォーキングフットボール、バウンスボールの2種目です。



ウォーキングフットボールについては、推進委員の活動で初めて触れ合う種目であったため、参加者と一緒の基本ルール



を学びました。ウォーキングフットボールとは、歩いて行うサッカーで、サッカー未経験でも、運動が苦手でも、障がいがあっても、怖がらずにプレーができる種目です。かなり大人な(笑)推進委員も小さいお子さんも年齢の隔たりなく楽しめるスポーツです。

独自のルールとして、ゴールを決めたら、チームのメンバーとハイタッチをするというルールを決めて、みんなで和気あいあいとした雰囲気になりました。

バウンスボールは、2コートで行いました。最初はボールを返せなかった子も、だんだんと返せるように上達していききました。柔らかいボールで行うので、小さいお子さんも、運動が苦手な方も気軽に楽しめるスポーツです。

今回は参加者よりも推進委員の方が多かったこともあり、参加者と推進委員が触れ合う機会も多く、推進委員が消極的な子に対して声掛けをするなどして、参加者が徐々に上達し、盛り上がりを見せていました。



みんな楽しそうだね！



第四十回市民健康マラソン大会

令和五年十一月二十六日(日)に第四十回座間市民健康マラソン大会が開催されました。計五百八十六名の参加者が集まりました。朝の冷え込みに負けず、ざまりん体操で体を温め、マラソン大会に臨みました。距離の違う四つのコースに分かれてのレースには、仲良く走る人や一位を目指す人など様々な選手がいて、健康マラソンにふさわしい笑顔もたくさん見られる大会となりました。また、沿道からの声援もランナーの大きな力となりました。閉会式の抽選会も大いに盛り上がり、楽しい一日となりました。

入賞おめでとう!



スタートは人がこんなにたくさん



県スポーツ推進委員会大会

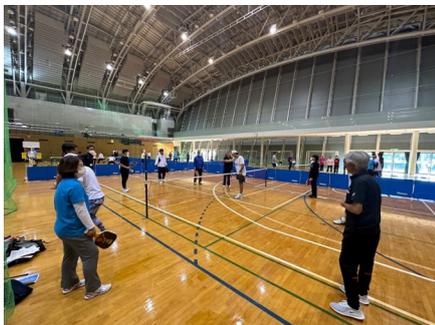
令和六年度の県スポーツ推進委員大会は、二月三日(土)横浜市民文化会館(関内ホール)にて開催されました。開会に先立ち行われたアトラクションは、神奈川県警察音楽隊による演奏と、横浜中華芸術団による「京劇」でした。音楽隊の演奏は、「名探偵コナンのオープニング曲」、「アナと雪の女王のメドレー」、「YMCA(西城秀樹)」の三曲でした。横浜は日本の吹奏楽の発祥の地とのことで、とてもレベルの高い演奏を聴くことができました。何より、みんながよく知っている曲ばかりだったことがうれしかったです。「京劇」は、歌と舞でしたが、いかにも中国らしいその調べは、日本人である私が、なぜかとても懐かしいと感じてしまうものでした。続いて演奏された「古箏(こそう)」は、琴のように見えますが、その音色はまるでハーブのように美しく、中国の古典芸術の素晴らしさを感じる事ができました。

基調講演は、日本パラリンピックの副委員長もされた高橋秀文氏による「パラスポーツを通じた共生社会の実現」をテーマにした内容でした。人の心を引き付ける話術で、あつという間に感じた90分でした。すばらしい講演が印象に残る大会になりました。

県スポーツ推進委員会研修会

令和五年十一月二十三日(木・祝)に平塚市の「ひらつかサン・ライフアリーナ」で開催された、研修会に参加してまいりました。種目は、「ピックルボール」です。アメリカで生まれたラケットスポーツです。バドミントンコートとほぼ同じ大きさのコートを使い、ネットを挟んでボールを打ち合います。ネットの高さはテニスとほぼ同じです。ラケットは卓球のラケットより二回りほど大きく「パドル」と呼ばれます。ボールはテニスボールより若干大きく、中が空洞で表面には多数の穴が空いているプラスチック製のボールです。

ラリーの速度が比較的ゆっくりであることがラリーのしやすさを生み出しており、老若男女がプレーに参加しやすいゲームとなっています。



ルールは、さほど難しくはなくて、初めての私たちが、式で楽しむことができます。

編集後記



県スポーツ推進委員大会での高橋秀文さんの講演で、印象に残った話を紹介します。ある施設で車椅子での移動をする方のためにスロープを設置したそうです。そして、その利用状況を調査した結果、一番多く利用していたのはベビーカーを押す親だったそうです。二番目に多かったのは高齢者でした。肝心の車椅子の利用は、思っていたよりも少なかったそうです。しかし、このことが教えてくれることは、障がいを持った人が住みやすい街づくりは、お年寄りや、子育て世代の人にとっても住みやすい街づくりになる、ということだと思います。そして、このことは、私たちスポーツ推進委員が普及するスポーツにも当てはまることではないかと考えます。スポーツを誰もが楽しめるために、ルールや用具を工夫することの大切さを示唆された、高橋さんの講演でした。

編集担当(総務部)

有山周一・高橋廣・大矢一雄
依田玄基・野村みさを
松崎佳子・花城愛子・小林真
菅野美恵子・窪田晃子・
池田徳晴・山崎哲